

平成30年度地域包括ケアに携わる多職種合同研修会開催結果・評価

項目	内容
1 目的	療養が必要な地域住民を支える地域支援関係者と医療関係者が顔の見える関係ができ、情報交換できるようになる。
2 期待する効果・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援関係者、医療関係者等の多職種が情報交換・共有する関係性と環境が構築される。 ・年1回の研修会にとどまらず、例えばケア・カフェ®のような場が年2～3回開催される。 ・多職種の交流の場を運営する組織ができる。
3 日時	平成30年10月31日（水） 18：00～21：30
4 場所	プラザホテル板倉
5 内容	<p>1 講演「顔の見える多職種連携づくり～ケア・カフェ®の活動と効果」 講師 ケア・カフェ®ジャパン代表阿部泰之氏（旭川医科大学病院緩和ケア診療部副部長）</p> <p>2 グループワーク 「ケア・カフェ®体験～自分の仕事・あなたの仕事」（ケア・カフェ®第0回） カフェ・マスター 白鳥洋平氏（ケア・カフェ®ジャパン）</p> <p>3 交流会（参加希望者のみ） コーディネーター 北空知介護支援専門員連絡協議会 事務局長 佐々木 大樹氏</p>
6 出席者	看護職39名、介護支援専門員25名、MSW・SW・相談員9名、薬剤師3名、保健師10名、リハビリ職6名、ヘルパー10名、事務職7名、医師5名、歯科医師2名、管理栄養士1名、精神保健福祉士1名、歯科衛生士1名、その他2名 <u>合計121名</u>
7 結果	<p>1 講演概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケア・カフェ®は医療介護連携の方法論。効果の検証を量（地域連携尺度）と質（アンケート自由記載）で実施。 ・ケア・カフェ®に参加することにより「地域の他職種の役割がわかる」「地域の関係者の名前と顔がわかる」「顔の見える関係が作られる」「人間関係が深まる」「職種によるヒエラルキーが払拭される」「仕事に活かされる」 ・得られているのは多職種の連携だけではない→楽しさ・癒やし・元気をもらう、思考の多様性・対話の重要性に気づく。 ・長く続けるコツ→相互扶助（必要な物は持参・運営費の募金）、テーマを据える（専門性の高いものにしない、「問い」の形式にしない、弱い紐帯（知人程度の知り合い）、自由度（たまにはお酒もあり）、敷居の低さ。 <p>2 ケア・カフェ®体験 テーマ「自分の仕事・あなたの仕事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人で1G、知らない人同士で自由に着席。テーマに基づいて自由に話す。 ・自己紹介→他己紹介→テーブルホストを決め、テーマに基づき自由に話す→テーブルホストを残し席替え2回実施。 <p>3 交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽食を取りながら歓談。 ・テーブルスピーチで自身の仕事や役割について紹介、ケア・カフェ®体験の感想等を発表。 ・ケア・カフェ®は顔の見える関係づくりに有効、機会があれば参加したい等の意見・感想が聞か

項目	内容
	<p>れていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力する意思表示を明確にした参加者が2名いたほか、関心を持つ参加者がいたので個別に協力依頼をする。
<p>8 評価</p> <p>達成度について</p> <p>○ → 達成・良かった</p> <p>△ → ほぼ達成・まあ良かったが課題あり</p> <p>× → 達成できていない・良くなかった</p>	<p>企画</p> <p>○地域の多職種連携の課題に即した企画だったか→○</p> <p>地域の多職種連携の課題：看護職が入院患者の生活をイメージ出来ていない、地域支援関係者は病棟看護師がどう働いているかイメージできていない→病棟看護師と地域支援関係者が関係性を構築する環境が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しめる研修会だった。楽しめるだけではなく仕事のためになる研修会。 ・参加者と気軽に話すことが出来ていた。地域のケアマネや病院の医師を知る機会になる場。気軽に交流できる場。 ・病院看護師と考えの違いがあると思ったが、話してみるとそうではないことがわかったとの参加者の感想が聞かれた。 ・仕事をしていく上での目的は一緒。共通の関心事や話題があると交流できる。 <p>※以上から地域支援関係者、医療関係者が交流し関係性を構築できる場（環境）を提供する機会となった。今後も交流できる環境を提供し続けることが必要。</p> <p>○講師の選定→○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携を推進するツールとしてケア・カフェ®を実践している講師の講義、ケア・カフェ®体験の場を提供してもらうことが出来た。 ・講師以外にケア・カフェ®体験の際のカフェ・マスターを担う人材（介護職）を同伴し、カフェ・マスターは誰でもが担える役割であることを伝える機会となった。 <p>○周知方法→○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催通知を各関係機関へ送付。各関係機関で開催通知文がどこまで関係者に伝わっているかは不明。施設の参加状況から参加を呼びかけてくれているキーマンが何名かいると思われる。繰り返し周知せずとも、申込者は120名を越えた。 <p>○会場の状況→○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数は100名を超えており、広さ、設備から適当だった。
	<p>プロセス</p> <p>○小部会の打合せ・準備状況→○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小部会の開催4回。ラインを活用した日程調整は便利だった。 <p>○小部会のメンバーそれぞれが役割を遂行できたか→○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担して実施できた。 <p>○ねらった参加者の参加→△</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護職は20～30代の若者の参加が少ない。 ・参加者が少ない地域があった。 ・市立病院以外の病院の参加者が年によって少ない、あるいはない場合がある。 ・参加がほとんどない専門職（管理栄養士、歯科衛生士など）がある。 ・ケアマネは月初め（10日頃まで）、病院関係者（薬剤師等）は月末が多忙で出席しづらい。月半ばの日程が参加しやすい。 <p>※若者、参加者の少ない地域、病院、少数専門職へのアプローチが必要。</p>

項目	内容
結果	<p>○参加者数→○ 121名</p> <p>○職種→△ 看護職39名、介護支援専門員25名、MSW・SW・相談員9名、薬剤師3名、保健師10名、リハビリ職6名、ヘルパー10名、事務職7名、医師5名、歯科医師2名、管理栄養士1名、精神保健福祉士1名、歯科衛生士1名、その他2名 ・歯科衛生士、管理栄養士等への働きかけ</p> <p>○参加者の満足度→○ ・アンケート結果から講義では理解度、興味度、参考度それぞれについて「できた、持った、なった」「ややできた・持った・なった」の選択肢を選択した人が9割以上、ケアカフェ®では楽しさ、有意義さ、役立ちそれぞれについて「楽しい、有意義、役立つ」「少し楽しい・有意義・役立つ」の選択肢を選択した人が9割以上とアンケートに回答したほとんどの人が満足していることがうかがえる。</p> <p>○交流の場の運営を手伝ってくれる人の確保ができたか→○ ・アンケートに協力出来ると回答した人が3名。うち2名は記名があった。また、交流会をとおして協力してくれそうな人材が何名かあったことから、個別に働きかけ、部会メンバーとともに企画・実施・評価を実施していく体制を構築していく。</p>
まとめ	<p>・北空知地域で多職種連携を推進していくための環境を提供しつづけることが必要。今回ケア・カフェ®の手法をもとに研修会を開催したが、北空知地域に合った形でこのような交流の場を年3～4回開催出来れば良い。</p> <p>・運営を手伝ってくれる人が数名いるので、新たなメンバーと年度内に打合せを実施し、新メンバーが押さえている現状や思いを確認しながら次年度の方向性を明確にしていく。</p>